

土曜教室ボランティア研修会

10月20日 15:00~17:00、柴崎学習館第一教室でボランティア研修会を開催し、外部の講師ではなく土曜教室内のボランティアが講師を務めました。

1. 講師：味香建夫氏の発表

①今まで教室で教えて感じたこと

1人の教師に対し受講生の人数はどのくらいが最適であるかを初級者、中級者、上級者別に説明。授業のマンネリ化を防ぐ方法等について。

②JICAでの海外駐在体験談

農業指導員として派遣されたアフガニスタン、エチオピア、カンボジア、パプアニューギニアなどでの生活環境や授業の様子について。



2. 講師：橋本副会長

①新しい語彙の導入方法、受講生が理解できたか否かの確認の仕方、類義語も一緒に教える等の説明。

②語彙を教えるための8つのツールの紹介と、それらのメリット、デメリット。

今回の参加者は10名で若干少なかったにも関わらず、活発な意見交換ができ有意義な研修会であった。



TIFA多文化交流サロン えんがわサロン 3年目を迎えて

2016年4月より立川市協働推進課の支援を得て、毎月一回定期的にサロンを開設しています。「日本語を話したい人」「日本の文化を知りたい人」「暮らしの情報を得たい人」などが集い、TIFAボランティアやOGの協力のもと、毎回さまざまな交流を展開しています。

- ・開催日時：毎月第四金曜日 13:30~16:30
- ・場所：立川市柴崎会館（柴崎学習館より徒歩2~3分）
- ・対象者：立川市及び周辺在住の外国人及び繋がる人々

2016年度実績：2016年4月~2017年3月

活動内容：「日本文化を知ろう！」

参加人数 *外国人：年間延べ人数 25名+幼児13名
国籍：中国、韓国、米国、カナダ、コロンビア、ブラジル

*日本人：年間延べ人数 90名

2017年度実績：2017年4月~2018年3月

活動内容：「簡単和食に挑戦！」

参加人数 *外国人：年間延べ人数 25名+幼児10名

国籍：中国、韓国、米国、カナダ、ベトナム、ブラジル、フィンランド、ペルー

*日本人：年間延べ人数 70名

えんがわサロンは2018年度で3年目を迎えました。「石の上にも3年」、HPやFBでのPR活動が功を奏し、リピーターも増えてきました。インドやルーマニア、台湾の新たな国の方々も参加され、身振り手振りを交えて、「やさしい日本語でおしゃべり」を楽しんでいます。



若葉台小学校3年生との交流会

10月25日（木）授業終了後、受講生の韓淑娟さん（中国）、黒川ラッグワンさん（タイ）、インキャ ラジャブ ハルナさん（タンザニア）と、引率者としてボランティア2名の計5名で若葉台小学校との交流会に参加しました。

3年生は3クラスあり、各クラスの児童数も多く、元気いっぱいの子供たちと「風呂敷包み体験」を通して楽しい交流の時間を持つことができました。

各クラスでは、それぞれグループ毎に違った包み方を覚えて、外国人に分かりやすく教えられるよう準備して待っていましたが、当日は受講生も子供たちの熱心な説明を受けながら「リボン結び」や「スイカ結び」…等々、古くからの日本の知恵にふれ、子供たちと会話を交わしながら便利な風呂敷の使い方も覚えて、とても楽しそうでした。

外国人を前に少し緊張したという子供もいましたが、これからも外国人との楽しい交流を重ねて相互理解が深まっていくことを期待しております。担当の先生より会長に、「子供たちは大変喜んで交流を楽しんだ、ぜひ次回もお願いします。」とのお電話を頂いたとのことでした。

受講生の紹介（木曜教室）

氏名：チョイ カレン 女性 40歳代



出身地：香港
住所：立川市柴崎町
来日：2017年8月
私は香港から来ました。香港は中国の町です。香港は混雑した町です。香港には高いビルがあり、

忙しい人が沢山います。家族は夫と息子と娘がいます。息子は6才です。娘は2才です。子供達はインターナショナルスクールに通っています。家では英語と広東語を話します。息子は日本語も話します。私は買い物と読書が好きです。小説と子育ての本が好きです。

氏名：インキャ ラジャブ ハルナ 男性 30歳代

出身地：タンザニア

住所：立川市若葉町

来日：2015年9月

仕事は建設設計（デザイナー）です。タンザニアの広大な国立自然公園には、キリン、シマウマをはじめライオン、ヒョウなどが共生しています。母語はスワヒリ語ですが英語も話せます。今は日本語の会話と平仮名を勉強中ですが、将来は漢字を覚えたいと考えています。趣味は読書、バイオリン、卓球、テニス。独身です。どうぞよろしくお願いします。



氏名：李 丹丹（リ ダンダン） 女性 30歳代



出身地：中国河南省
住所：立川市錦町
来日：2011年2月
中国で就職して中学校の英語教師として7年間授業を担当しました。その後、旦那と知り合い、結婚して日本に来て7年経って娘は6歳になりました。現在家族三人です。趣味は園芸と、娘と一緒にピアノの練習をすることです。日本語学習は楽しいですが、和製英語の発音が英語と違うところがあるので最初は迷いました。日本語教室の先生は親切に説明してくれて大変助かりました。

氏名：曹 志恩（ジョ ジウン） 女性 30歳代

出身地：韓国案養市

住所：日野市

来日：2018年4月

来日前に3回、旅行で日本を訪れたことがあります。大阪道頓堀で食べた「たこ焼き」「お好み焼き」が美味しかったです。韓国の大学ではピアノ科、大学院では教授法を学びました。7歳から19歳の青少年にピアノを教えていました。友達と二人で演奏会などもしたことがあります。主人の仕事の関係で来日。現在は三人家族。幼稚園に通う三歳の娘に毎日楽しくお弁当を作っています。料理が趣味です。幼稚園からのお知らせが読めたり日本語会話ができるようになったりしたいので日本語教室に通って頑張りたいです。



氏名：レ チュン ティン 男性 20歳代



出身地：ベトナム
住所：立川市柏町
来日：2017年10月
タイヌン省にはバーデン山という有名な山があります。高くないけれど沢山お寺があって、テトの時などに花や果物を持って家族や友達とお参りに行きます。家の近くにもお寺があって中には大きな目があります。8月15日には龍や灯ろうなどの飾りで賑やかです。趣味は旅行で海が好きです。バドミントンを18歳からやっていて得意です。日本語は漢字が難しいですが覚えたいと思います。

氏名：李 銀淑（イ ウンスク） 女性 60歳代

出身地：韓国案釜山

住所：昭島市

日本語教室で学び介護の仕事に入って10年になります。介護の仕事は人の役に立つ最高の仕事だと思ひ汗を流しています。また、将来、私が何も出来なくなった時に、ヘルパーにやってほしいと思うようなことを考えながら行動するように心がけています。たまには気分転換に映画を見に行ったりランチを楽しんだりしています。



町田国際交流センター

1998年7月、町田国際交流センターの前身である町田国際協会が設立されました。その後、2004年4月に、町田市における地域文化と国際交流の振興をはかり「文化の薫り高く国際感覚豊かなまちづくり」に貢献することを目的に、財団法人町田市文化・国際交流財団が設立され、その一部門として町田国際交流センターが誕生しました。公益法人制度改革に伴い、2011年4月に一般財団法人に移行し、今年設立20周年を迎えています。

2018年3月現在、会員、賛助会員合わせて694名が登録しています。



町田国際交流センター外観

活動は、7つのボランティア部会を事務局（センター長1名＋事務局員2名＋嘱託・臨時職員3名）がバックアップしながら、大きく4つの事業が展開されています。日本語教室や生活相談

などを中心とする外国人支援事業、英語をはじめとする外国語サークル（6言語）や国際理解の講演会・懇談会、学校での総合学習への協力などの国際理解事業、国際交流パーティー、留学生のホームステイ・ホームビジット、ボランティア祭などの国際交流・協力事業、そして情報誌「ぼろんていえ（Volontiers!）」の発行や関係機関との連携事業です。



日本語教室



外国語サークル

町田市の地形が、東京都の他市と接しているのは北側のみで、神奈川県に接している方が多いということから、事業に参加する外国人、日本人ボランティアとも、町田市民だけでなく、隣接する相模原市、川崎市はじめ神奈川県民も多いそうです。

—外国人相談—

外国人相談部会には約70名のボランティアが登録し、生活相談、市民病院等への同行通訳、市役所等から依頼された翻訳を中心に活動しています。

この3つの事業の総件数はずっと年間170件程度だったそうですが、最近増えていて、2016年度372件、2017年度479件と急増しています。相談内容も在留資格、結婚・離婚、子育て、老後の生活、DVと多岐にわたり、難しい事案も多いそうです。困難なケースについては複数のボランティアで対応を協議し、専門用語の多い医療通訳では2人一組で同行することを原則にしているそうです。

2010年に同行通訳に関しての実施マニュアルを作成し、その後毎年見直し、2017年には第8版を発行しています。また、年間20～30件ある市役所等の公共機関からの翻訳依頼については、資料として蓄積し活用されているということでした。ボランティアとはいえ、生活や命にかかわる課題だけに、個々人に対応を任せるのではなく、情報を共有し組織として対応していく姿勢が確立しているといえます。

—子どもたちの国際理解—

町田市には、桜美林大学、国士舘大学21世紀アジア学部、青山学院大学相模原キャンパスなど、留学生の多い大学が存在します。これらの大学の協力も得ながら、小中学校等の総合学習の時間に留学生や職員を派遣し、ゲーム、クイズ、工作、音楽などを通じて異文化を知り、国際理解を深めてもらう取り組みが行われています。2017年度は延べ900人の児童・生徒が参加しています。その他にも、夏休み・春休みキッズ英語、小学生のための国際理解体験といったプログラムが組まれています。



小学校での国際理解講座

多摩地域の外国人人口は1980年と比べると現在約4倍になっています。新たな在留資格の創設なども検討されており、今後ますます外国人人口がふえていくことは明らかです。従来にも増して、基礎自治体が地域社会の隣人として外国人住民と共生していけるかどうかが問われる時代になると言えます。

未来を担う子どもや若者たちが、早い時期から異文化に触れ、多様性を理解し、外国籍の人々と自然体でつきあっていけるかどうかは、これからの地域社会を展望していくうえでとても大切なことです。

大学という地域資源にも恵まれた町田市ならではの活動を、さらに期待したいものです。

世界ふれあい祭りバザー

11月3、4日恒例の立川楽市ふれあい祭り部門にTIFAも大量のバザー品を取り揃えて参加しました。初日の天気は天が抜けんばかりの快晴、二日目は時々小雨混じりの曇天で人出はほぼ昨年並みの印象でした。バザー品はどれも趣旨に賛同してくれた受講生や講師、それに知り合いの方々より寄せられたもので、皆TIFAの活動に特別の支援の気持ちが込められたものばかりでした。今年は7、8名の受講生も値付けから始まって、品並べ、呼び込み、販売の労を積極的に取り、講師ともども丁々発止の息の合った来客対応を見せていました。その間何時間も立ちっ放しで殆ど一休みする時間さえままならぬ忙しさではありましたが、その甲斐あって、総売り上げは7万円近くにもなり、諸経費を除いた純利益約4.8万円を教室の活動資金に充てる事が出来ました。また周辺を見回せば、懐メロの昭和歌謡を打ち鳴らすチンドン屋の練り歩き、会場の四隅から聞こえて来る若者向けのビートの利いたニューミュージックの響き、各国名物料理の匂いと呼び込みの声の中、TIFA講師、受講生が一体となって活動し、成功裡に終わったことはこれからの学習の励みの一助になるものと確信を抱かせるものでした。



日本語アラカルト・無生物主語

「雪が降る」「テレビが壊れる」のような文では、「雪」、「テレビ」のような無生物が主語として使われています。無生物が主語になっている文は日本語にたくさんありますが、「雪が列車を停めた」「テレビがニュースを伝える」のような言い方は日本語としてあまり好まれません。「停める」「伝える」のような動詞の動作は、基本的には生物である人間が意志的に行うものです。「雪で列車が停まった」「(私は)テレビでニュースを知る」のように無生物で主語になれる動詞を使うより、人間を主語にする方が自然な日本語の感じがします。

一方、英語のような言語では無生物にも意志があるような文が、特に問題なく使われます。

One hour walk will bring you to Tachikawa Station.
(一時間歩けば、立川駅に着きます。)

外国語の影響かもしれませんが、「新技術が日本を変える」「読書が知識を増やす」などのような表現を目にすることは珍しく

ありません。とは言え、英文直訳のような表現はやはり日本語として不自然な感じがします。英語等を母語とする学習者に、より日本語らしい日本語を教えたいと思うなら、無生物主語の使い方には注意する必要があるようです。

(「てにをは」からやりなおす日本語レッスン 技術評論社 から一部引用し加筆)

TIFA会員動向

【入会者】

木曜教室：なし
土曜教室：鈴木 愛由、前田 美穂
西砂教室：電土 愛浪

【退会者】

木曜教室、土曜教室：なし
西砂教室：片野 和江

【休会者】

木曜教室、土曜教室：なし
西砂教室：高橋 由希子

【復帰者】

西砂教室：増泰 隆



土曜教室 新入会者
左から前田、鈴木

今後の予定

- ・木曜教室ランチパーティー：12月20日(木)
- ・イヤーエンドパーティー：12月22日(土)
- ・土曜・西砂教室3学期開始：1月5日(土)
- ・木曜教室 3学期開始：1月17日(木)

連絡

立川国際友好協会ホームページ
<http://tifa-class.net/>



TIFA企画ホームページ
<http://tifa-k.net>



西砂教室ホームページ
<http://tifa-n.net>



TIFA会報には掲載していない行事や数多くの写真が掲載されています。ぜひご覧ください。